

残雪の尾瀬を訪ねて(2012.5.7～)



残雪の尾瀬ヶ原上田代に行く 遠景は燧ヶ岳

期 日 :20012年5月7～9日

メンバー :原 和雄、小林 茂、田辺 浩二、加藤 平二、大和義孝(記録)

コースタイム:

5月7日 加藤車にて加藤宅 5:00＝原宅 5:10＝小林宅 5:30＝大和宅近くコンビニ 6:00＝片吹交差点
6:25＝首都高湾岸線幸浦IC6:33＝葛西JCT7:05＝外環道大泉JCT(関越入口)7:40＝7:50 三芳PA
8:15＝沼田IC9:20＝10:00 戸倉バス亭(旅館玉泉)10:20＝10:40 鳩待峠 11:10－12:26 テンマ沢過
ぎの大岩 12:50－川上川を渡る橋 12:58－山の鼻ビジタセンタ 13:08－13:45 休憩 14:01－牛首分岐
14:20－14:55 龍宮十字路(龍宮小屋)15:10－15:50 桧枝岐小屋(見晴)泊

5月8日 桧枝岐小屋 6:17－見晴新道(燧岳登山道)分岐 6:35－7:35 休憩 8:00－白砂峠 9:00－白砂
湿原 9:10－沼尻 9:55－浅湖湿原 11:30－12:00 長蔵小屋(小林、加藤はここで泊)12:40－尾瀬沼山
荘13:20－三平峠 13:55－14:55 休憩 15:00－三平橋 15:08－16:10 大清水 16:30＝16:45 旅館玉
泉 (戸倉)泊

5月9日 (小林、加藤)長蔵小屋 7:20－三平峠下 7:50－三平峠 8:30－三平橋 10:20－11:05 トマブド
ウ橋(沼田林道)他3人と合流。

(原、田辺、大和)車で旅館玉泉 9:30＝桜、新緑見物＝10:20 大清水－11:05 トマブドウ橋(全員合流)
11:20－11:30 大清水 12:30＝関越道沼田IC13:30＝14:30 高坂SA15:00＝大泉JCT＝外環道三郷
南IC＝一般道＝首都高速道錦糸町IC＝湾岸線幸浦IC＝田辺宅 17:50＝大和宅 18:20＝小林宅
18:50＝原宅 19:10＝19:20 加藤宅



原 和雄



小林 茂



田辺 浩二



加藤 平二



大和 義孝

記 録

5月7日（月）晴

加藤さんの車に5人全員が乗って行くことにした、加藤さんは朝5時に野比の自宅を出発、岩戸の原さん、次に上町の小林さんを拾い横横道を経由で、横浜栄区の大和を拾い、金沢区の片吹交差点で田辺さんを乗せ、首都高湾岸線幸浦ICから首都高に乗る、葛西JCT経由川口JCTで外環道に、大泉JCTで関越道に入り 7:50 三芳PAに到着、朝食をとる人、コーヒー飲む人等、各人思い思いに30分程休憩を取る。沼田ICから一般道に降り、沼田街道を尾瀬戸倉に向かう、途中、吹割の滝見物用駐車場が道の両側に有る所を抜け、鎌田温泉、片品温泉を通る、片品温泉付近では桜が満開である、10:00 に尾瀬戸倉のバス停前にある旅館玉泉に到着、戸倉発鳩待峠行きのバス出発時刻の 10:20 に間に合って良かった。

この時期はまだ自家用車乗り入れ規制をしていないので車で鳩待峠まで行けるが帰りは大清水に出てくる予定なので戸倉に車を置いて行く事にした。旅館玉泉は下山する5月8日に泊まる予約をしてあり、車を預かって貰うと共に5月8日に大清水からの最終バスに乗り遅れた場合迎えに来てくれる様依頼。

登山靴に履き替えたり登山の準備をし、鳩待峠行きのマイクロバスに乗り込む、乗客は我々のみで有る。バスは細いくねくねした道を登り20分程で標高 1591mの鳩待峠に着く。

バス停や駐車場、休憩所、小屋の周りは雪掻きがして有り雪はないが山の中に入ると 50～100cmぐらいの残雪が積もっている。この峠では登山者は1名と駐車場の管理人が1名が居るのみで閑散としている。ここで身支度を整える。



戸倉バス停からの旅館玉泉



鳩待峠休憩所前広場



鳩待峠バス停(我々が乗ってきたマイクロバス)



鳩待峠から至仏山



鳩待峠にて

駐車場の管理人に集合写真を撮ってもらい 11:10 鳩待峠を出発する。しらびそ等の広葉樹林に残る雪の上を踏み跡と標識を頼りになだらかな下りを進む、雪は比較的締まって歩き良いが斜面ではすべるので5分ぐらい歩いた所でアイゼンを付ける、加藤さんは 10 本爪で他の者は4本爪の軽アイゼンである、軽アイゼンでも十分効いた。山腹をトラバースきみに川上川の河床に向かって下る、テンマ沢付近では一部雪が解け小さい水芭蕉が芽をだしているそこを過ぎると道は河床と平行になり、木道が現れ大岩を挟んでいる、ここで昼食にする。そこから10分ほどで川上川に架かる橋を渡ると山の鼻の建物群が見える。



アイゼンを付ける



広葉樹林帯を行く



樹林帯を歩く小林さん



テンマ沢付近の雪解けに芽吹く水芭蕉



大岩で休憩



山の鼻はもうすぐ

少し歩くと山の鼻ビジターセンタに着く、山の鼻は連休の後のためかひっそりとして誰もいない、建物は多くあるが木々の間に静まり返っている、至仏山への三叉路の標識が雪の中から出ている、これより一面雪で覆われた尾瀬ヶ原の上田代湿原の大雪原に出、中央に真直ぐに伸びた踏み跡上を行く、天気は晴れで風はなく、寒くなく暑くなく快適に歩く、前方遠くには燧ヶ岳が、振り返ると至仏山が見える。



山の鼻ビジターセンタを撮る加藤さん



山の鼻小屋、尾瀬ロッジ



山の鼻至仏山への分岐点から



上田代の雪原に真直ぐ伸びた踏み跡を行く



至仏山を背にして進む前は原さん



川上川近くになると雪が少なくなる



川上川を渡る



新調した木道が現れる前方は燧ヶ岳



振り向けば至仏山が座ってる

山の鼻から少し歩くと湿原をながれる川上川を渡る、暫く程歩くと雪が解けて木道が出、上ノ大堀川を渡る、池塘の水たまりに映る林と燧ヶ岳が美しい、この付近が牛首である、木道の脇にテラスベンチが有り雪がなく休む。雪原に出て初めて1人の人に出会う、小屋関係の人だそう、そこからは木道が出ていて雪も少なくなる、20分ぐらいで牛首分岐点である、ここからは中田代の湿原で他と比べ暖かいのか雪が解け土が見え、水芭蕉が咲いている。この付近は水芭蕉を見るためか、回り道した木道が2,3本ある。



池塘に映る燧ヶ岳



水芭蕉見物用と思われる木道が交差する



牛首分岐の標識



牛首分岐のテラスベンチ



雪が解けた湿原の水芭蕉

、龍宮小屋に近くなると再び雪が多くなり木道が隠れ、時々、木道を外し足を取られる。龍宮小屋前で休憩、龍宮小屋は営業中で中から女性1人の登山客が出てきて明日は尾瀬ヶ原の北西にある景鶴山(2004m)に登るという、この山は残雪期しか登れないそうだ。



龍宮小屋



龍宮小屋の玄関



龍宮小屋を出てすぐ沼尻川を渡る



見晴に向かって歩く田辺さん



見晴の建物群

ほか2名のみである

小屋から少し歩き沼尻川を渡る、川は雪解け水で水量が多くきれいな流れである、ここからの道は木道が現れたり隠れたりした道で注意しないと踏み外す、尾瀬の調査をしている？4,5人の人とすれ違う、見晴に近くなると4,5件の山小屋が見えてくる。営業しているのは「桧枝岐小屋」1軒のみで我々はそこに泊まる。15:50 小屋に着く、ほっとする。小屋は1人 8,500 円で前払い、料金を払い2人と3人に分かれ部屋に入る。風呂に入る、山小屋での風呂は初めてで驚きである、なお風呂は自然保護のため石鹸は使えない、汗を流すのみである、食事も品数は少ないが普通旅館並みである。お客は我々の

5月8日(火)晴

朝5時に起き昨夜に用意して頂いた朝食のおにぎりを食べ、身支度をし6:17ひのえまた小屋を出発する。天気は上々、風もなくまたそれほど寒くない、樹林帯の中を見晴新道分岐点までは小屋の主で髭が有名な萩原秀雄さんに案内して頂く、雪が解け踏み跡がないので大変助かった。主曰く雪の量は新潟県が大変多かった様であるが尾瀬はほぼ平年と変わらないが寒さが長く続いたので雪解けが遅いとのこと。分岐からは木の幹のペンキあるいは赤い布きれの目印を頼りに進む、小屋の主に教えられたように、目印を見失った時は元の見印まで戻り、そこで次の目印を捜し進む。道は燧ヶ岳の山麓をまくように徐々に登ってゆく、雪の少ないところが有り木道が時々現れる、時々雪のため木道が分からず踏み外すので注意しながら歩く。



松枝岐小屋の前で記念撮影



朝霧の中でアイゼンを付ける



見晴新道分岐点で小屋の主さんと



時々木漏れ朝日が射す



木道の上の雪は歩き難い

小屋を出て2時間ほど経った頃、小林さんの体調が悪くなり荷物を大和が持ち小林さんに合わせて歩く、9:00頃樹林帯から抜け馬の背の様な丘に出るここが白砂峠である、峠を下ると小さな雪原の白砂湿原である。その雪原を囲む林を抜けると沼尻の雪原に出る、沼尻には休憩所が有るが今は営業していない。ここから尾瀬沼の左を回る道と、右を回る道が有る。我々の計画では距離が短いので右へ行くことにしていたが、桧枝岐小屋のおかみさんが右は斜面が急なので足を滑らすと沼に落ちるから止めなさいと言われ、左に行く事にした。



白砂湿原の雪原



沼尻の休憩所



沼を右側に見て歩く



沼は一面雪で覆われている



浅湖湿原からの燧ヶ岳



浅湖湿原当たりから長蔵小屋を望む

沼は一面雪で覆われているが所々雪が解けて水があるも神秘的である。ほぼ沼岸に沿って木道が有る、浅湖湿原と大江湿原を横断し林に入ると長蔵小屋である、ちょうど12:00である、ここで昼食を取る。小林さんの体調が回復せず、小林さんと加藤さんの二人は長蔵小屋に泊まる事にした。他の三人は戸倉の旅館玉泉に予約しているため戸倉まで足を延ばすことにした。明日の連絡のため携帯電話で交信する時刻を決めたが長蔵小屋から大清水の間は携帯電話は使えず意味なかった、大清水に出て初めて携帯電話が使える。



大江湿原に架かる橋



橋を渡ると水芭蕉が目を出している



大江湿原からの燧ヶ岳



長蔵小屋

原さん、田辺さん、大和の三人は小林さんと加藤さんを残し、12:40 長蔵小屋を出発する。小屋の脇の雪の解けた所では水芭蕉が群生している。30分程、沼岸に沿って林の中歩くと尾瀬沼山荘が見れる、山荘の

周りを数人の人で雪掻きをし5月12日営業開始の準備をしていた。ここからは三平峠に向かって急な登りであるが布きれの標識がはっきりしているので迷うことなく30分程で三平峠に着く。三平峠は木々に覆われ見晴らせない。ここから大きな木の林間を少し歩くと見晴の良い場所に出る、ここからは急なジグザクの下りの木の階段を下りてゆく、階段は雪があつたりなかつたりで歩きにくい。ここで原さんが軽アイゼンの片方が靴から外れているのに気付く、しばらくして道に雪が無くなったので全員軽アイゼンを外す、三平峠から40分程あるくと三脚を持って登ってくる人に会う、今日は長蔵小屋泊と言う事なのでもし軽アイゼンを拾ったら加藤さんか小林さんに渡してくれる様依頼する。ここからは傾斜の緩やかな道になるが道が狭く藪漕ぎの様に下る、冬路沢を渡り少し下ると沼田街道(林道)の三平橋に出るホットする。幅広い淡々とした車道を50分程歩き大清水に着く。大清水に着いた時は16:10で最終バス(15:50)に間に合わず、旅館玉泉にTELし迎えに来て貰う、16:45旅館に着く。早速源泉かけ流しの温泉に入る、夕食には「ごごみ」「おぜびる」等の山菜天ぷらが出て美味しかった。



長蔵小屋脇の水芭蕉



三平下付近からの燧ヶ岳



三平峠



三平峠付近の樹林帯を標識を頼りに進む



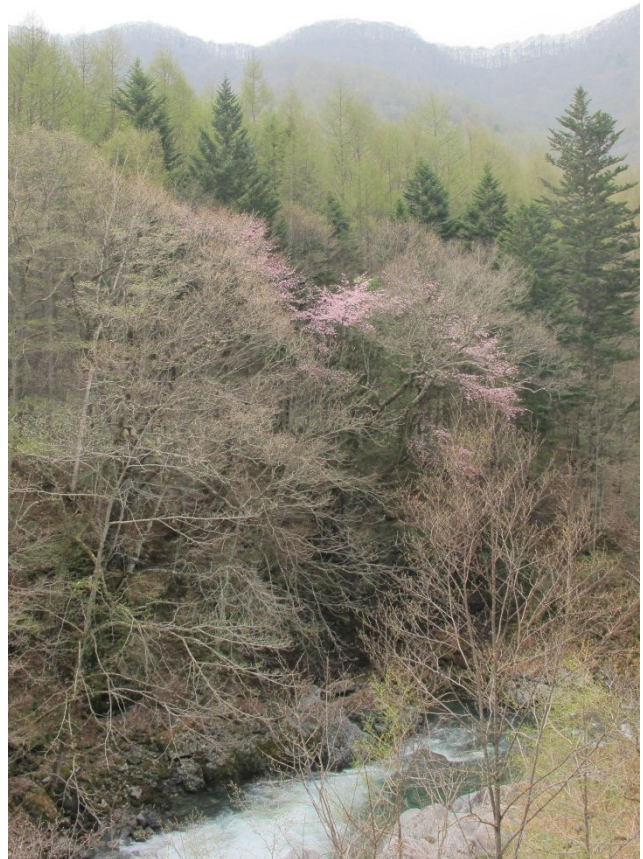
大清水

5月9日(水)曇

朝、温泉に入った後、小林さんの状態が心配になり長蔵小屋の衛星電話に6:30頃電話し加藤さんから様子を聞くと元気になったとの事安心する。

9:30 頃旅館を出、加藤車に乗り、大清水に小林、加藤さんを迎えに行く、時間が十分あるので途中何度も車を止めて満開の山桜や新緑のカラムツなどの写真を撮り、10:20頃大清水に着く。ここからの沼田街道は一般車は通行止めである。緩やかな登りの車道を三平橋に向かって歩く、道端にはフキノトウやキクザキイチゲなどの花が咲いている。30分ほど歩くと昨日登って行った三脚を持った人に会う、軽アイゼンを拾い加藤さんに預けたとの事、また、小林、加藤さんも間もなく来ると知らせてくれた。5分程歩くと元気に下ってきた二人に会う。無事に尾瀬山行をできたことを祝いコーヒーを飲もうと水の有るトマブドウ沢出合いまで戻る。水を汲んでいざコンロに火を付けようとしても火がつかない、よくよく調べるとガスタンクとノズルが一致していなかった、仕方ないのでコーヒーはあきらめ大清水に向かう。大清水では大清水小屋の裏手に池塘が有り、全員で水芭蕉やザゼンソウなどを見物、お土産を買い帰途に就く、12:30 大清水を出る。

沼田ICから関越道に入り高坂SAで遅い昼食を取る、道路は空いている。大泉JCTから外環道に入り川口JCTあたりから首都高に入らなければならないが間違えそのまま外環道を走り終点の三郷南に出、国道4号線から一般道に入り、迷った挙句、錦糸町ICより首都高に乗り湾岸線幸浦ICで降り田辺宅から順次降ろし19:20 加藤宅に着き、尾瀬山行は終わる。



満開の山桜と新緑に萌えるカラムツ



二人を迎えに行く田辺、原さん



大清水と三平橋の間あたりで二人に会う



林道の脇に咲く
キクザキイチゲ



無事に尾瀬山行終了(大清水登山口にて)



大清水小屋裏の池塘散策



ザゼンソウ



水芭蕉

尾瀬ヶ原の生い立ち

尾瀬ヶ原は、東西6 km、南北4 kmの広さを誇る本州最大の高層湿原です。尾瀬ヶ原をとり囲む山々は、火山活動を繰り返し、100万年ほど前にはほぼ現在の姿になったと考えられます。数十万年前には、燧ヶ岳が噴火を始め、やがて只見川がせき止められて、尾瀬ヶ原や尾瀬沼の原形ができあがりました。その後、スゲ類やミスゴケ類などの遺体からなる泥炭が8000年もの長い時間をかけて堆積し、現在のような湿原が発達しました。

湿原の表面にはミスゴケの発達により微妙な凹凸がかたち作られ、また、大小さまざまな池(池塘)には浮島が見られます。こうした微環境の違いに応じて、尾瀬ヶ原だけでも140種もの植物が生育しており、オゼコウホネ・オゼヌマアザミ・リュウキンカなど、尾瀬で発見・命名された原産種は42種を数えます。

この貴重な自然を守るために、尾瀬は、昭和31年に天然記念物に、昭和35年には特別天然記念物に指定されました。この悠久の歴史をもつ貴重な自然を守り後世に長く伝えていくことは、私たちに課せられた責務です。

平成8年10月

文化庁・群馬県教育委員会